

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム応用基礎レベル（情報社会学部）

2025 年度 自己点検・評価報告書

梶山女学園大学
大学情報教育開発センター運営委員会

1. はじめに

梶山女学園大学では、AI およびデータサイエンスを活用して課題を解決する実践的能力の育成を目的として、情報社会学部の学生を対象に「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」を運用している。本報告書は、2025 年度におけるプログラムの実施状況および修了状況について、自己点検・評価を取りまとめたものである。

2. プログラムの修了要件と対象科目

本プログラムは、1 年次および 2 年次に配置された指定科目を修得することを修了要件としている。

情報デザイン学科（4 科目・8 単位）

- AI・データと社会（1 年次後期）
- 情報基礎数学（1 年次前期）
- データ分析入門（1 年次前期）
- データサイエンス入門（2 年次前期）

現代社会学科（3 科目・6 単位）

- AI・データと社会（1 年次後期）
- 社会調査入門（1 年次後期）
- 社会データ分析基礎（2 年次後期）

3. プログラムの履修・修了状況（2025 年度）

表 1 にプログラムの履修・修了状況を示す。表 1 より情報デザイン学科では約 6 割が修了した一方、現代社会学科では 3 割強にとどまり、学科間で修了率に差が見られた。これは、2 年次科目の履修選択状況や必修科目以外の修得状況の違いが影響していると考えられる。

表1 プログラムの履修・修了状況

学科	参加者数	修了者数	取得率	在 student 数	在 student 数に対する取得率
情報デザイン学科	55	34	61.8%	77	44.2%
現代社会学科	33	12	36.4%	56	21.4%

※プログラム参加者数は、指定された1年次科目をすべて履修した学生数を指す。

4. 授業アンケートに基づく学修成果の評価

2025年度の応用基礎レベル対象科目において授業アンケートを実施し、教員によるリフレクションを行った。その結果から、以下の知見が得られた。

4-1. 両学科共通科目「AI・データと社会」

2025年度後期アンケート（回答88件）では、総合的充実度95.4%、内容理解度92.0%、知見の拡大93.2%と非常に高い評価が得られた。オンデマンド形式の利便性や、AIの仕組み・倫理・社会的活用まで幅広く学べた点が肯定的に受け止められている。

一方で、数学的内容やアルゴリズム理解に難しさを感じる学生もおり、丁寧な解説や復習支援の必要性が示された。また、Google Classroom上で課題が重なる際に混同しやすいとの指摘があり、タスク管理の改善が求められた。

4-2. 情報デザイン学科

「データ分析入門」

総合的充実度は94.8%と極めて高い。Excelに不慣れな学生からも「回帰分析やクロス集計を理解できた」との声があり、丁寧な指導が奏功した。復習支援の重要性も指摘された。

「情報基礎数学」

総合的充実度は平均84.3%であった。高校数学の履修状況や教育の差異が理解度に影響しており、習熟度が十分でない学生へのリメディアル教育が必要である。

「データサイエンス入門」

総合的充実度は88.4%で良好であった。学習定着には自主学習の強化が課題として挙げられた。

4-3. 現代社会学科

「社会調査入門」

総合的充実度は98.0%と非常に高い。担当教員変更があったにもかかわらず、リフレクションペーパーやグループワークが肯定的に評価された。

「社会データ分析基礎」

総合的充実度は100%（回答6名）。基礎理解が進んだ一方、小課題の計算問題につまずく学生も見られた。

5. まとめ

2025年度のプログラムは概ね計画どおりに実施され、一定数の修了者を輩出した。2026年度からは全学部の履修の手引きに認定制度を掲載し、履修ガイダンスでの周知も始まったことで、制度としての基盤整備が進んでいる。今後は、特に修了率が低い現代社会学科において、プログラムの意義や履修メリットをより明確に伝え、1年次から2年次科目へ円滑に接続できるよう支援を強化することが重要となる。中でも「社会データ分析基礎」への履修継続を促すガイダンスの充実が重視すべき課題となっている。また、数学的要素やアルゴリズム理解に不安を抱える学生が一定数存在するため、補足資料の拡充や分かりやすい解説動画の提供など、学修定着を支える教育手法の改善を進め、プログラム全体の質的向上を図る必要がある。

2026年5月2日